

前回委員会以降の各種会議の結果報告について

1. 科学委員会平成 23 年度第 1 回科学委員会【2011. 8. 5】 ⇒参考資料 1 参照

- ・科学委員会は、遺産登録を踏まえた今後の対応方針（第 35 回世界遺産委員会の決議を踏まえた今後の取組について）を基本的に了承し、これに基づき取組を推進することを助言した。
- ・世界遺産委員会決議（奨励事項）への対応として、小笠原エコツーリズム協議会に科学委員会を代表して委員長が参画することを了承し、各委員からの意見を踏まえ委員長が助言を行うよう助言した。
- ・科学委員会において保全・管理上の様々な問題（観光客の増加、事業間連携、予期せぬ事態の発生など）への対応を検討するための情報提供や、現地事務局の調整機能の強化、海域の価値の検討等の必要性について指摘があった。その他、所有者不明の土地における外来植物対策のための制度整備、弟島～父島のモクマオウ対策について検討するよう要望が出された。
- ・科学委員会は、科学委員会設置要綱の改定について事務局案のとおり了承した。
- ・科学委員会は、「小笠原諸島の生態系の保全・管理の方法として『植栽』を計画するにあたっての考え方」を案のとおり決定することを了承し、管理機関に対してその運用を助言した。
- ・生態系アクションプランの取組報告については、事前事後のモニタリングの重要性について指摘があった。
- ・その他、科学委員会としてのリスクリスト作成についての提案や、議論の時間を確保できるような委員会の開催方法の検討について要望があった。

2. 地域連絡会議第 15 回地域連絡会議【2011. 9. 29】 ⇒参考資料 2 参照

- ・地域連絡会議は、地域連絡会議設置要綱の改定について事務局案のとおり了承した。
- ・世界遺産登録後の変化について、各出席者から登録後の変化について情報提供が行われた。情報提供の内容は以下のとおり。
 - 世界遺産登録後の観光客の増加に対し、島内の観光業者は冷静に受け止めている。自然と共生していくというスタイルを維持しながら観光客をもてなしたい
 - 石門地区に無断で入ったり、石門の樹木に落書きしたりするなど、観光客のマナーの低下が見受けられる
 - ガイドをどう育てるかが重要な課題である
 - 観光船の増加は想定しておらず、今後どのような影響が出るのかが心配である
 - メディアの取材が多くなり、取材の特別許可の出し方を考える必要がある
 - リピーターでない客が増えた
- ・小笠原自然文化研究所より、世界遺産週間の設定と地域連絡会議のワーキンググループの設置について提案がなされ、地域連絡会議委員と事務局とで設置に向けた検討を進めることとした。
 - ⇒資料 1 - 2、参考資料 3 参照
- ・第 35 回世界自然遺産委員会の審議結果、生態系アクションプランの取組、小笠原諸島世界自然遺産登録記念式典等について事務局より報告を受けた。